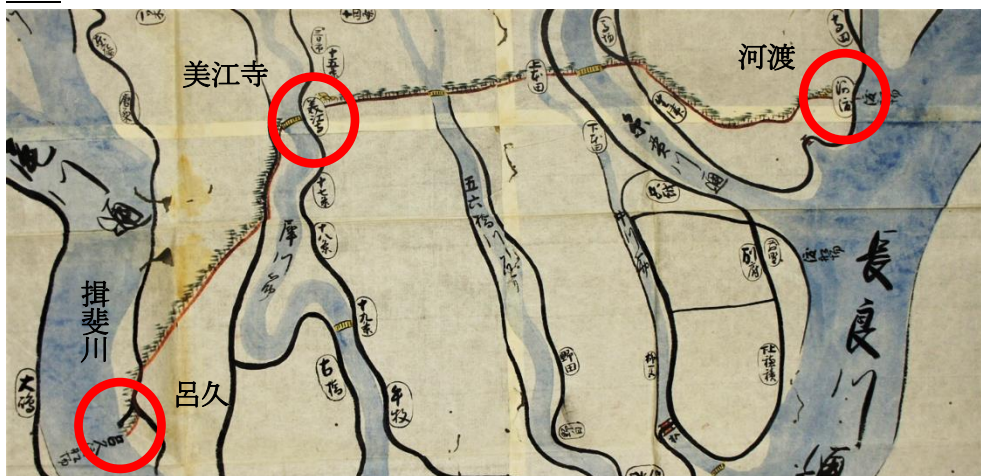


## 1、今回読む史料

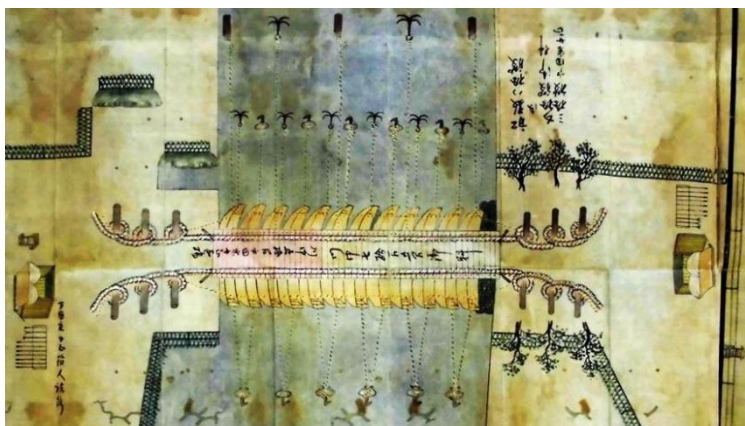
- ・「亥年濃州江渡・美江寺・呂久船橋道具割帳」(2・08-14-3)
- ・美濃郡代笠松陣屋堤方役所文書の中にある史料。
- ・慶長16年(1611)、徳川家康が上洛した際、美濃国内に架設された船橋に関する記録。
- ・領主・代官ごとの負担資材の書上げや、幕府代官から、領主らにあてた書状を収録している。
- ・14代将軍徳川家茂が、文久3年(1863)に将軍として229年ぶりに上洛するにあたり、その前年に実施された先例調査で書写されたもの。

## 2、背景

- ・慶長16年、徳川家康は、後陽成天皇の譲位と後水尾天皇の即位を取り仕切るため、上洛した。  
上洛中、二条城で家康と豊臣秀頼の会見や在京大名からの誓紙の提出など重要な政治的イベントが行われた。
- ・行程：3月6日駿府出発、11、12日名古屋滞在、13日岐阜、14日赤坂、17日上洛。
- ・家康は中山道を通り上洛しており、岐阜-赤坂間の河渡(岐阜市)、美江寺(瑞穂市)、呂久(瑞穂市)に船橋(多くの船を横に並べて綱または鎖でつないで、その上に板を渡して橋としたもの)が架設された。



中山道河渡宿より呂久渡迄美濃路墨俣渡より西結渡迄往還絵図(部分)



寛延元年(1748)佐渡川船橋絵図

### 3、主な登場人物

- ・上様（徳川家康）：慶長 10 年（1605）、将軍職を子の秀忠に譲り大御所となる。慶長 12 年から駿府城を居城とする。
- ・駿府御年寄衆：駿府における家康の年寄衆。
- ・鈴木左馬助：美濃国奉行大久保長安の配下。
- ・石原清左衛門：美濃国奉行大久保長安の配下。  
※国奉行：美濃など畿内近国に置かれ、幕府領・私領の関係なく、一国単位で広域的な行政を担当した。
- ・徳永法印：徳永<sup>よしまさ</sup>寿昌。高須藩主（5 万 3000 石）。
- ・西尾豊後：西尾光教。揖斐藩主（3 万石）。呂久は、西尾の領地であった。
- ・織田孫市：織田長則。野村藩主（1 万石）。
- ・平岡牛右衛門：平岡<sup>よりすけ</sup>頼資。徳野藩主（1 万石）。

### 4、船橋架設の担当者

河渡・美江寺：加納藩主奥平忠政（10 万石）

呂久：揖斐藩主西尾光教、高須藩主徳永寿昌、野村藩主織田長則、徳野藩主平岡頼資

船橋架設担当と務めた理由：架設地点の領主（河渡・美江寺：加納藩領、呂久：揖斐藩領）

※ただし、呂久は揖斐藩以外にも架設担当者がある。これは、揖斐藩の石高が 10 万石に満たないため、加納藩と同じ 10 万石となるように、調整したためと考えられる。

### 5、この言葉は誰が誰に言ったのか

（史料 1）

- ・ \_\_\_\_\_ → \_\_\_\_\_ : ①～②「今度 上様濃州通御上洛ニ付而～被 仰出候」
- ・ \_\_\_\_\_ → \_\_\_\_\_ : ①～②「呂久舟橋かけ可申」
- ・ \_\_\_\_\_ → \_\_\_\_\_ : ③～④「来十六日ニ於呂久、徳永法印～御渡候へ」
- ・ \_\_\_\_\_ → \_\_\_\_\_ : ⑦「早々被出候へ」

（史料 2）

- ・ \_\_\_\_\_ → \_\_\_\_\_ : ①～②「今度 上様濃州通就 御上洛、呂久舟橋かけ可申」
- ・ \_\_\_\_\_ → \_\_\_\_\_ : ③～⑤「来九日ニ右之舟共～平岡牛右衛門衆へ可有御渡」

【船橋架設と資材提出にかかわる指示の流れ】

